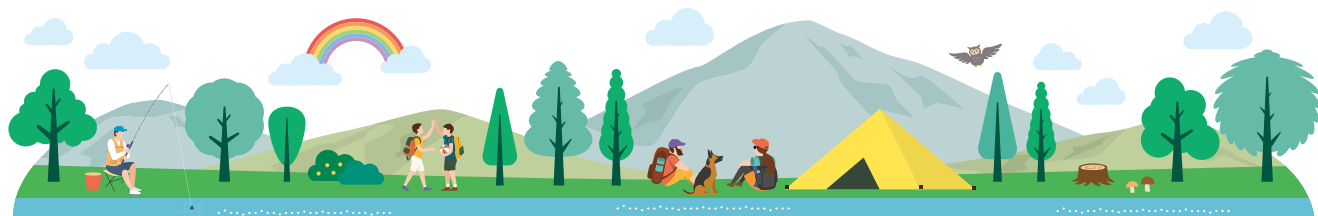


2025

紙パックリサイクル 年次報告書

Paper Carton Recycling
Annual Report



捨てるより **リサイクル** が

気持ちいい。

全国牛乳容器環境協議会

発行にあたって

日頃より全国牛乳容器環境協議会(容環協)の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2025年を迎え、私たちを取り巻く環境は依然として不透明な状況です。新型コロナウイルス感染症の影響は薄らいだものの、ウクライナ情勢やパレスチナ問題を始めた世界情勢、円安の進行やエネルギー費・食料品の高騰、気候変動による異常気象や酪農乳業への影響など、多くの課題を抱えています。一方で、持続可能な社会の実現に向け、環境課題に対する感度と機運が高まっていることを感じています。

これらの困難な状況下においても、私たち容環協は、紙パックリサイクル率向上への取組みを通じて、脱炭素社会・循環型社会への移行を推進するため、活動を続けてきました。牛乳や乳製品の市場の縮小に伴い、紙パックのリサイクル活動にも影響が出ていますが、私たちの活動が社会に対してポジティブな影響を与え、持続可能な社会の実現に向けて貢献できるよう、一層の努力を重ねて参ります。2025年度も、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



全国牛乳容器環境協議会
会長
柳田 恭彦

容環協の活動の柱となる「紙パックの回収率50%を目標とする諸活動を通して持続可能な社会づくりに貢献すること」を目的とした「プラン2025／飲料用紙パックリサイクル行動計画」では、(1)紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション、(2)回収率向上のための啓発、(3)紙パックの回収・再生インフラの整備支援、(4)次世代を担う子供たちの環境マインド向上、(5)活動への理解促進、活動の公表と評価の5つの課題を掲げています。目標年度である2025年度は、取組みの継続・強化を図り、取組み成果の客観的検証と、振り返りを行いながら、紙パック回収率50%達成を目指します。

「プラン2025／飲料用紙パックリサイクル行動計画」において、「もったいないからリサイクルしよう」といった視点に加え「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるサステナビリティへの取組み」といったテーマを追加しています。2024年も継続して、紙パックの特徴、回収の必要性、正しいリサイクル方法を浸透させることを目指し、容環協HPの改修やSNSの活用、自治体の有料ごみ袋への広告掲載を行いました。

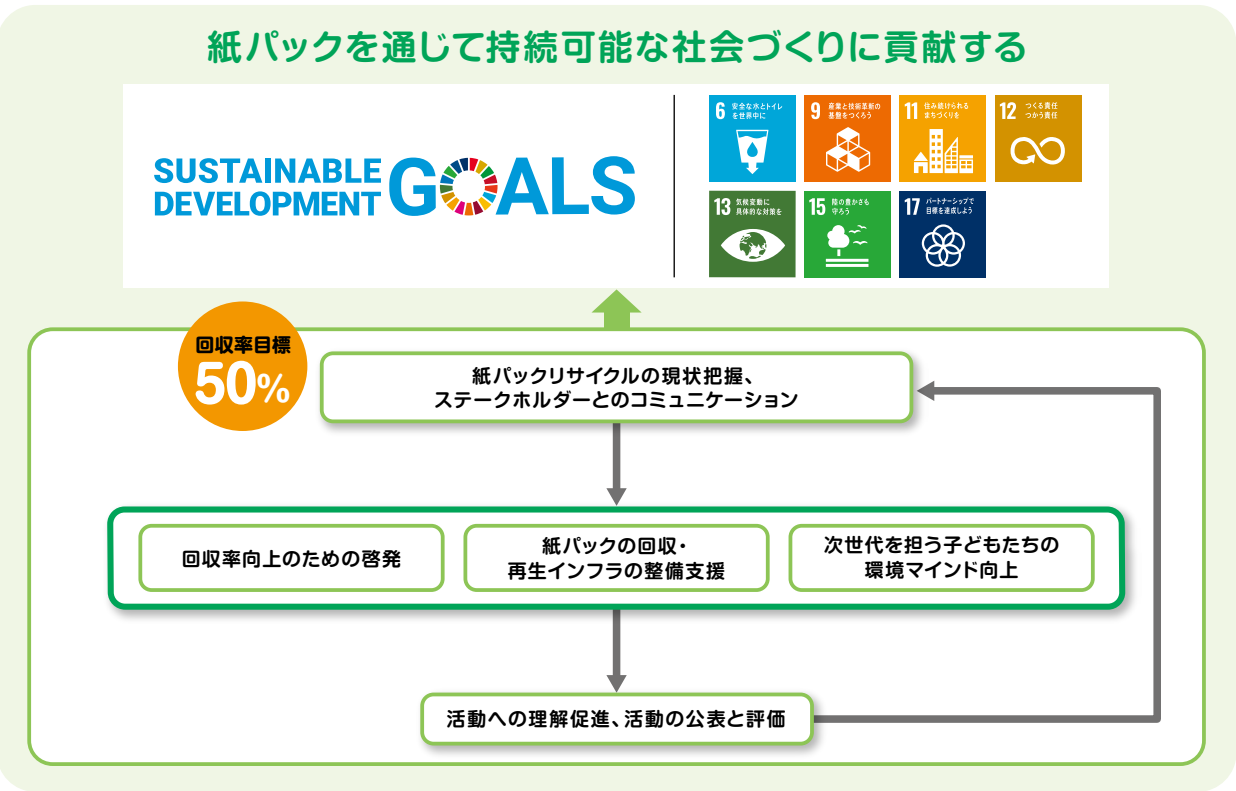
また、一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会と連携し、業務用の紙パックについても再資源化に取組みました。小中学校への出前授業、自治体イベントへの出展などでは、体験実習を採り入れた対面での活動も実施しました。12月にはSDGs Week EXPO2024／エコプロ2024に出展すると共に、工作コンクール「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の入賞作品を展示し、広く多くの方々にご覧頂きました。

サステナブルな社会への関心が高まっている一方で、ここ10年程漸減傾向にあった紙パックの回収率は2021年度に底を打ったようにも思われますが、製造過程で発生する損紙や古紙を含めても4割程度、製品として出荷された容器包装に限れば3割程度しか回収されていません。紙パックは針葉樹パルプを主体とした強度の高い紙と、内外面にラミネートされたポリエチレン等の樹脂から成る複合素材であり、適切に回収し、分離した素材ごとに適した方法で再生することで、さまざまな製品へリサイクルできる「資源」です。このことをステークホルダー、特に生活者や外食事業者の皆さまにお伝えし、回収率の向上とリサイクルシステムの構築につなげたいと考えています。

以上、ご紹介した内容を中心として、1年間の活動内容を総括した、「2025紙パックリサイクル年次報告書」を作成しました。お目を通し頂き、ご意見をお寄せ頂ければ幸いです。多くの皆さまからのご意見が、紙パック回収率の向上、リサイクルの推進、資源の有効活用など社会課題の解決につながるものと考えています。紙パックの資源循環は、紙パック飲料をご利用頂いているお客様と、回収や再生、製造や流通に携わるさまざまな皆さまのご協力があって実現するものです。今後とも、紙パック回収とリサイクルへのご協力を宜しく願い申し上げます。また、会員や賛助会員の皆さまにおかれましては、今迄にも増して更なるご協力を宜しく願い申し上げます。

2025年1月

プラン 2025 飲料用紙パック リサイクル行動計画



CONTENTS

プラン 2025 飲料用紙パック リサイクル行動計画	①
活動トピックス	
プラン2025／4年目の取組状況	②
リサイクル促進意見交換会	③
飲料用紙パックリサイクル行動調査	④
業務用領域の取組み	⑤
その他の広告・啓発活動	⑥
紙資源の組成分析調査	⑦
紙パックリサイクル講習会／イベント・出展	⑧
牛乳パックリサイクル出前授業	⑩
容環協の発行物	⑪
エコプロ2024	⑫
牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール	⑬

活動報告ダイジェスト

2023年度 紙パック回収率	⑭
2023年度 紙パックマテリアルフロー	⑮

2024年度状況報告

小売事業者のリサイクル状況	⑮
福祉施設のリサイクル状況	⑰
市町村回収・集団回収の状況	⑳
学校のリサイクル状況	㉒
製紙メーカーのリサイクル状況	㉓

紙パックのリサイクル学

紙パックを取り巻くダブル循環 ^{ループ}	㉔
-------------------------------	---

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ	㉔
回収ボックスリニューアル	㉘
会員一覧	㉙

プラン2025／4年目の取組状況

リサイクル促進意見交換会

プラン「2025」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

全国牛乳容器環境協議会（容環協）では、乳業メーカーと飲料用紙容器メーカーの会員企業から選出された専門委員によって、「総務」「広報」「イベント」「支部組織」の4つの委員会を組織し、それぞれ月に1回以上の頻度で会議を開きさまざまな課題を検討しています。また、各委員会の委員長を始めとする構成委員からなる「企画運営委員会」を月に1回開催し、組織横断的な情報共有と活動の進捗確認を行っています。プラン2025で掲げている5つの行動体系にかかわる2024年の活動概況は以下の通りです。

(1) 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

飲料用紙容器（紙パック）を資源として有効利用するための分別回収を支えるためには、消費者による分別排出が欠かせません。容環協ではその状況を確認するため、自治体が消費者から回収した資源物（雑がみ、紙パック）を組成分析することで、雑がみに混入する紙パックの比率や、回収された紙パック中の夾雑物の内容や割合を調査しています。また、自治体や会員企業を含むステークホルダーによる啓発活動が消費者の意識変化、行動変容につながっているか評価するため、関東地方一都六県の消費者を対象としたインターネット意識調査を継続して実施しています。また、郵送アンケートでは、飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査、地域ごとの回収力分析、古紙業者の紙パック取扱い意向調査を実施し、我が国における紙パックのリサイクル率や回収インフラの状況を確認しています。また、進んだリサイクル活動を行う自治体や学校に伺ってインタビュー調査を行い、水平展開につながるベストプラクティスを収集・発信しています。

現状把握のための各種調査に加え、会員企業を始めとしたステークホルダーとの意見交換を行い、古紙リサイクルに関わる事業環境の変化や、紙パックリサイクルにおける潜在的な課題がないか、注視しています。

(2) 回収率向上のための啓発

プラン2025の取組みで始めたWebを活用したタイアップ広告は第10弾となり、継続して容環協サイトへの誘導につなげています。2024年にはタイアップ広告の素材を使ったパネルを作成してイベントで啓発に使うなど、オンラインでの成果をリアルな活動に採り入れました。容環協サイトにおいてはリサイクル事例ページを刷新し、以前に取材した記事に見出しを付けて掲載するこ

とで、閲覧可能なコンテンツの量および一覧性を改善しました。リアルイベントとして、総合環境展であるエコプロ2024ではパネルと動画を使ったブースを設け、また冊子や紙パックをリサイクルして作った物品の配布を行って啓発に取組みました。そのほかにも、自治体が開催する啓発イベントでは、紙パックの特長と分別回収の意義、リサイクルの必要性などをお話していますが、この一年は特に、参加者との対話により共感を作ることに力を入れました。

一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会と連携した取組みでは、店頭で回収ボックスを設置したり啓発資料を配布したりする取組みを継続するだけでなく、飲食店の持つ地域での発信力を活用して出前授業を開催することができました。

Webサイト等から申込みを受け付けて紙パック回収ボックスや啓発資料を無償配布したり、自治体の指定有料ごみ袋に啓発広告を掲載したりする活動も継続しています。

(3) 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

飲料用紙容器の回収に使える牛乳パック型の回収ボックスを継続して無償配布しており、2024年1～11月実績で237個を配布しました。また、回収ボックスのデザインを更新し、エコプロ2024にて初披露しました。旧デザインの在庫がなくなり次第、新デザインの回収ボックスをお配りする予定です。

地域ごとの回収力分析調査によって各地域や自治体が抱える課題を捉えると共に、全国製紙原料商工組合連合会（全原連）にご協力をいただき、市区町村別の紙パックの回収区分や紙パックを古紙回収する業者の情報を調査し「古紙原料問屋調査報告書」をまとめています。

(4) 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

紙パックは漂白された長繊維のバージンパルプから作られており、分別してリサイクルすることで有用な紙資源として活用できることを伝えるため、各地の小中学校に赴き出前授業を行っています。感染症の影響により2020年2月以降の訪問先は市民団体と連携して講義を行う川崎市など、神奈川県の一部に留まっていたましたが、2024年には千葉県や大阪府の小学校でも実施できました。

前記エコプロ2024では、全てのブース説明員が小中学生の環境学習を支援するキッズサポーターとして、パネルの解説をしたり、質問に答えたりしました。

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールに今年も協賛し、審査や表彰に参加しました。全国から3,395作品の応募があり、受賞作はエコプロ2024に来場の皆様にご覧いただきました。

(5) 活動への理解促進、活動の公表と評価

毎年の活動状況を自ら振り返り、また消費者を含むステークホルダーの皆様にお知らせするため、年次報告書を毎年、発行しています。Webサイトでは年次報告書だけでなく、各種啓発資料のPDFや、直近に実施された出前授業・イベントの記録を公開しています。

毎年5月に開催される総会においては、前年の活動を振り返って評価を行い、改善を図って当年の活動計画を立てています。

関係団体が多数集い、 リサイクルの現状と課題を 話し合う貴重な場に。

【第36回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2024年2月19日に乳業会館にて、農林水産省食品ロス・リサイクル対策室、同牛乳乳製品課、経済産業省素材産業課、同資源循環経済課、環境省リサイクル推進室、自治体、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカー、流通事業者、乳業メーカー、飲料用紙容器メーカーなど約65名参加のもと、Web会議にて開催しました。

最初に容環協の伊藤常務理事から、能登半島地震被災者へのお見舞いを述べた後、歴史と現状について「1984年に山梨県の市民運動から始まり、『洗って、開いて、乾かして』という回収ルールが全国に広がったが、ここ10年ほど回収率は頭打ちなので、リサイクル活動をさらに前進させる有意義な会にしたい」との挨拶がありました。農水省から、「少子高齢化やコロナ禍の影響等により集団回収や店頭回収が減少する情勢下においても回収率が下げ止まっており、再資源化の一層の推進に向けて本日の意見交換の成果に期待したい」との挨拶がありました。

次に取組状況報告として容環協から、組織構成と活動テーマ概要を説明しました。回収率目標50%とともに持続可能な社会づくりに貢献するための5つの体系からなる新規行動計画「プラン2025」を制定し、取り組んでいることを報告しました。続いて4つの専門委員会の活動状況を各委員長から報告しました。



伊藤常務理事の挨拶

調査会社からは、2022年度の回収率調査結果の詳細内容として、飲料用紙パックの回収率は38.7%、使用済紙パックの回収率は29.4%とそれぞれ前年度比0.1ポイント減であったが、他の古紙として回収され紙パックとして分別されたものを分子に加え、まな板などに再活用されたものを分母から引くと、それぞれ41.5%、32.2%と試算されること、店頭回収が減少し、集団回収は下げ止まってきたこと、学校でのリサイクルは前年度比1.7ポイントよくなったことなどの説明がありました。

ひたちなか市、阿見町から特徴ある取組みとして、前者は紙パック回収量に応じた図書カード交付事業、後者は紙パックの回収方法や小学生への啓発活動について報告していただきました。

後半の意見交換では、紙パックの回収に関する課題や成功事例が共有されました。学校給食用紙パック（学乳パック）の回収がコロナ禍の影響で一時中断していたが、再開に向けた取組みが進んでいることと、その背景として市を挙げての小・中学校のSDGsの授業の取組みがあると報告されました。注ぎ口付き紙パックは現在製紙メーカーにて問題なく使用されているが、未晒し（漂白していない茶色の）原紙を使用した紙パックが増えることへの懸念の声も出ました。市民団体や自治体の取組みも紹介され、工場見学を通じて紙パックのリサイクルを啓発している事例が報告されました。市民団体から、1リットルの紙パック6枚でトイレペーパーが1個できるという話をすると、すぐ驚かれる方がたくさんおられるということはまだ情報がしっかりと伝わっていないと感じるとの意見も出ました。

地球環境問題・資源循環への対応が求められる中で紙パック回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要と再認識いたしました。



専門委員の報告

飲料用紙パックリサイクル行動調査

業務用領域の取組み

飲料用紙パックの
リサイクルについて
インターネット調査を
行いました。

【2024年 飲料用紙パックのリサイクル行動調査】

飲料用紙パックリサイクルの消費者セグメント構造(行動パターン)の把握を目的に、昨年度に続きインターネット調査を行いました。今年度は関東の1都6県(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬)に絞り込み、15～79歳の男女計1,500人を対象とした調査を通じて、年代別のリサイクル行動の違い、リサイクルしている理由、リサイクルができていない障害、昨年度との比較による行動の変化などの状況が明らかになりました。

調査対象者の約7割が「リサイクルをしている」と回答し、昨年度から上昇(+1.6ポイント)しました。リサイクルのきっかけとしては、昨年同様、「スーパーやお店で回収していた」「自治体でやっていた」が2大理由で変わりはなく、「インターネットの動画サイト、特集・記事、SNSで見た・紹介された」については予想したほどの伸びはなく微増レベルでした。

一方、「今後したいと思うが、具体的なやり方を知らない」比率は昨年より若干低下(−1.7ポイント)していることから、リサイクル方法の認知自体は一定程度あることがうかがえました。また年代が高くなるにつれてリサイクルをしている人の比率が高くなる傾向は昨年と同様ですが、若年層のなかでも「リサイクルをしているかつ周りにも推奨している」「リサイクルできることを知らない人」が共に一定数あることから、若年層の認知が進めばリサイクルがより進む可能性が示されました。

リサイクルしている理由については、「常識」「習慣化」「環境への配慮」「自治体ルール」が昨年同様主要因ですが、若年層では「友人知人」「好きな有名人がやっている」など周りからの影響が強いことも示されました。

リサイクルができていない障害は「手間がかかる(忙しくてできない)」が昨年よりも上昇しており、その理由は、洗うことや「開く・乾かす」段階にあることがわかりました。

また「リサイクルをしているのを知らない」層は30代以下・一人暮らしなどの若年層に多い状況です。また、「出す量が減った／やめた理由」として、「商品の購入量が減ったため」

という理由が大多数の約4割を占め、今後、リサイクル量が減少する要因になっていく可能性が示唆されます。

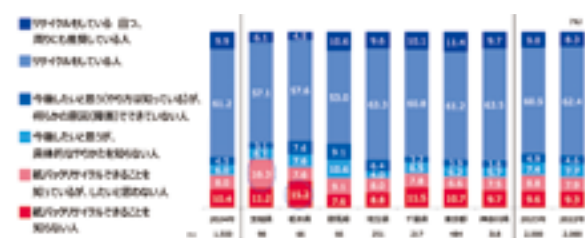
リサイクルを増やす施策については、「ゴミ収集場所への紙パック専用置場の設置」「割引・ポイント」「よく行く場所へ回収場所があったら」が続きますが、「リサイクルしたいと思う条件はない」とのネガティブな意見も一定数ありました。

容環協では、出前授業、リサイクル講習会、地域の環境イベントなどを通じて「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取組み」であることを、実体験を通じてお伝えしたり、Webサイトのコンテンツを充実させたり、様々な観点からの啓発活動を進めています。

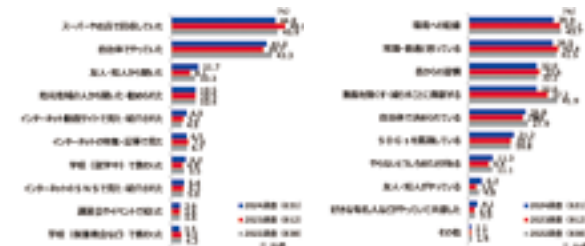
紙パックのリサイクル量を増やすには、現在リサイクルを実施していない方々がリサイクルを開始するきっかけづくり、一度始めた人にはリサイクルを中断させない意識・環境づくりが重要です。昨今のインターネットやSNSの使用時間が増加している状況からは、ネットを活用したアプローチがより有効な手段になっていくと考えられましたが、リサイクルに取り組みきっかけはネットよりもリアルの体験に結びついていることが調査から示唆されました。従来の活動に加えて、実際の行動に結びついていくような新しい取組みも考えていく必要があります。

今回、明らかとなった課題についての対応を進めていくとともに、効果を客観的に見極めていくため、今後もこのような調査を定期的実施し、容環協の活動に反映していきたいと考えています。

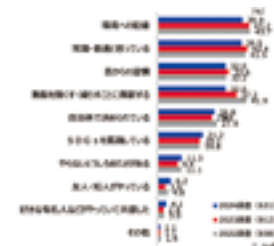
紙パックリサイクル状況(6セグメント)



リサイクルをするきっかけ



リサイクルをしている理由



一般社団法人
日本サステナブル・レストラン協会
(SRAジャパン)と連携した
取組みを継続しています。

【SRAジャパンとの取組み】

容環協は主に飲食店における業務用領域での紙パック回収について、2024年度もSRAジャパンと連携した取組みを継続して行いました。活動の中心となるのが、「FOOD MADE GOOD 紙パック50アクション」キャンペーンです。このキャンペーンは、飲食店における紙パックの回収啓発と回収率の向上を目指し、回収ルートの設定と定着の実現に向けた実証実験を行っています。今年度は8月1日から9月30日を対象期間と設定し、各参加エリアはそのうち、1ヶ月間を選択し活動しました。

3年目となる今年度は、地域での連携をより一層強化するため、SRAジャパンの加盟店だけでなく、地域の団体も中心になり、環境啓発イベントなどにも積極的に参加しました。さらに、行政との直接的なパイプ作りや、キーパーソンとのネットワークの形成を通じて、より多くの地域の飲食店に働きかける取組みに発展させ、前年度より2エリア増の9エリアに拡大して、キャンペーンを展開しました。

1.キャンペーン参加エリアが全国に拡大、大規模ホテルが新たに参画

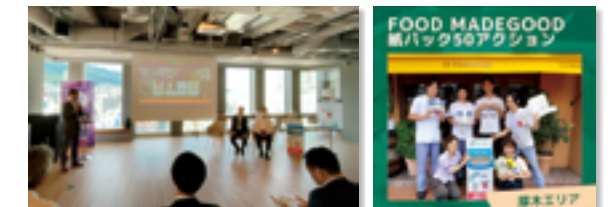
今年度の参加エリアは、前年度に続き、兵庫県芦屋市、神奈川県厚木市と同茅ヶ崎市、愛知県名古屋市・半田市の4エリアに加え、新たに兵庫県神戸市、山形県鶴岡市、京都府亀岡市、栃木県那須塩原市の4エリア、またホテルの回収モデルの検証として、東京都千代田区のザ・キャピトルホテル 東急が千代田エリアとして、加わりました。

キャンペーン期間中は、各エリアのSRAジャパン加盟店に紙パック回収ボックスを設置し、近隣の飲食店や地域住民に紙パックリサイクルのリーフレットを配布、リサイクルの重要性をお伝えしました。

2.紙パックの回収枚数は前年比倍増

2024年度のキャンペーン期間中の紙パックの回収枚数は、前年度の約2倍にあたる、12,209枚になりました。紙パック6枚を1個のトイレトペーパーにリサイクルできる

として換算すると、2,035個分にあたります。また、CO₂排出量抑制効果は、約286kgになりました。このように回収枚数をCO₂に置き換えてみることで、本キャンペーンに参加した事業者からは、自分たちの行動を変えることでCO₂排出量の抑制に貢献した実感が持てたと、感想をいただいています。



神戸でのセミナーのようす

SNS各種での紹介

3.FOOD MADE GOOD Japan Awards 2024 BESTリサイクル賞の授与

11月18日には、SRAジャパンが主催する、レストランのサステナビリティ活動を評価して表彰する式典である「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2024」が開催され、和田支部組織委員長が「BESTリサイクル賞」のスポンサーとしてプレゼンターを務めました。



FOOD MADE GOOD Japan Awards 2024 表彰式

参加エリアの中から千代田、厚木、茅ヶ崎、名古屋・半田、神戸の5つのエリアがファイナリストに選出され、千代田エリア(ザ・キャピトルホテル 東急)が、「BESTリサイクル賞」を受賞しました。

ホテル内の多部門に向けて横断的に情報を共有し、社員一丸となり紙パックのリサイクルを推進したこと、また継続的な回収の仕組みも整えたことが高く評価され、受賞につながりました。今後、全国のホテルに向けて紙パック回収のロールモデルとして活動が広がっていくことが期待されます。

SRAジャパンとの紙パック回収キャンペーンを核にした、年間の協働を通して、紙パックのリサイクル業務を日々のルーティンとして継続に繋げ、事業系における紙パック全体の回収率向上を目指して、今後も取組みを行ってまいります。

その他の広告・啓発活動

紙資源の組成分析調査

【WebやSNSを活用したタイアップ広告】

紙パックの特徴、リサイクルの意義、正しい分別方法、再生紙工場の工程や設備、身近な再生品などを広く多くの方々にお伝えし、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできるSDGsへの取り組みであることをご理解いただくため、2022年からWebやSNSを活用したタイアップ広告を継続しています。スマホやPCを日常的に使用している方々は多く、これまでに行った計10回のWeb広告のページビュー(PV)数は累計で約167万PVとなっており、Web広告とリンクさせた容環協ホームページの閲覧数も伸びています。ご覧いただいた方々によるSNSへの投稿、SNS上での活発な意見交換や議論なども行われており、Web広告は多くの方々にとって紙パックリサイクルについて改めて考えていただくきっかけにもなっていると共に、容環協としても、さまざまな視点からの意見を伺うことのできる気付きとなっています。6月に掲載した第9弾では、外国人から見た日本の文化でもある紙パックリサイクルに対する驚き、10月からの第10弾では、ある小学校での給食後の素晴らしい取り組みである飲み終わった牛乳の紙パックのリサイクル活動を掲載し、容環協ホームページへのアクセス数が大幅に増加しました。

今後とも、リサイクル講習会、出前授業、イベント出展などの直接的な啓発活動に加えて、広く多くの方々に情報をお伝えすることができるWebやSNSを始めとした媒体やホームページを通じた啓発活動に取り組んでいきます。



タイアップ広告第9弾

タイアップ広告第10弾

【自治体指定のごみ袋への広告掲載】

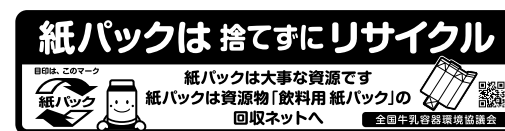
2019年から、各自治体が指定している「可燃ごみ袋」へ「紙パックは捨てずにリサイクル」のメッセージを掲載し、広く市民の方々に啓発する取組みを進めています。2024年度には、前年度に掲載頂いた東京都羽村市、神奈川県逗子市に加えて、新たに神奈川県茅ヶ崎市、愛知県犬山市、北海道帯広市の計5市へ広告掲載を申請し、全て承認されました。掲載自治体を全国に広げることができ、ごみ袋の購入時や使用時に容環協のメッセージを確認いただけるものと思います。

ごみ袋への広告掲載は、行政にとってはごみが削減され焼却施設への負担が減る、市民の皆さまにとってはかさばる紙パックを有料のごみ袋に入れなくて良い、容環協にとっては紙パックリサイクルの推進につながるといった、まさに「三方良し」の取り組みです。今後とも容環協では市民の皆さまに向けて、紙パックリサイクルの意義を伝えていきます。

●各自治体指定の可燃ごみ袋へ掲載頂く啓発メッセージ



逗子市



犬山市



帯広市

コロナ禍後の分別排出状況を把握するため、2023年から再開した組成分析調査に参画しています。

【2024年度は組成分析調査を4回実施】

紙パックや雑がみ(ミックスペーパー)の紙資源物は、自治体が地域住民に分別排出の方法を広報誌や公式ホームページで案内しても、地域ごとにそのルールが異なる事情もあり、ティッシュペーパーやトイレトペーパー等に再生可能な紙パックが他の古紙類と混在してしまい、残念ながら有用な再生資源が一定以上廃棄される状況が続いています。

2004年以降に実施してきた過去の組成分析調査では、雑誌・新聞・段ボール等を含め自治体が回収した古紙(紙パックを除く)への、「紙パック(アルミ無し)」の混在率がおおむね3%以上であることが分かっています。

容環協では、コロナ禍が終焉した23年春から24年12月まで計7回、紙製容器包装リサイクル推進協議会(以下紙推進協)および印刷工業会液体カートン部会からの呼びかけに応じて組成分析調査に参画してきました^{*}。

24年は名古屋市(3月)・旭川市(7月)・千葉市(10月)、神戸市(12月)にて計4回実施しました。千葉市の調査では、集団回収で集められた紙類・混在物の山を22の組成に分類したところ、紙パックは乾いた良質な状態の束がまとめて回収され、他の古紙の混入が少なく、単独でパレットに仮置きできるほどの量でした。また、紙パックだけでなく、包装紙・紙箱(ティッシュペーパー箱とそれ以外の箱)・紙トレイ・ラップの芯等の分別されている割合が高く、住民の方々の環境意識の高さが感じられました。

容環協は今後も紙推進協および印刷工業会液体カートン部会と連携を密にとり、大切な紙資源全体の回収率向上に努めると共に、高品質な再生材である紙

パックの回収に関わる課題解決のヒントをひとつでも多く見出し、有効な対策につなげてまいります。

※紙推進協主体の組成分析調査:2004年から2019年実施、2023年から再開
印刷工業会液体カートン部会:2007年から毎年1〜2回実施
容環協単独の組成分析調査:2014年以降に随時実施



排出された資源を分類して箱に入れます(名古屋市)



排出された雑がみをほぐし仕分けします(旭川市)



分別排出された紙パック(千葉市)

紙バックリサイクル講習会／イベント・出展

全国イベントでの意見交換や
自治体イベントでの啓発活動
を実施しました。

【こどもエコクラブ全国フェスティバル2024】2024年3月24日

こどもエコクラブは幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。これまでに約290万人が参加し、全国で9万人以上が各地域で自主的な環境学習や実践活動を行っています。今回、年度の締めくくりとして、さまざまな企業や団体の支援や協力のもと、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。全国エコ活コンクールの応募作品から選出された都道府県の代表が集まり、容環協として企業・団体ブースに初出展しました。

ブースにはSDGsや環境にスポットを当てた4枚のパネルを掲示し、机の上には丸太やチップ、回収された紙バックから作られたトイレトペーパーやボックスティッシュなどの再生品に加え、紙バックの構造が判るようにしたもの、紙すきに使えるパルプ液、手すきはがきなどを展示しました。立ち寄っていただいた方にノートやポケットティッシュにも紙バック由来の再生紙が利用されていることをお伝えしました。「みんなの飲んだ牛乳バックをまとめ、ガンガシャ洗っていました」「昔、紙すきをやったことがある!」「紙バックはリサイクルされているのに回収率3割は意外だった」「もったいないからまな板に使っている」など、多くの意見や質問が飛び交いました。

日本の紙バックの回収システムと海外のシステムが比較されることがあります。こどもエコクラブ会員の子供たちであれば、さまざまな視点から双方のシステムを捉え、議論することができるようになるかもしれません。これから巣立っていく層に、日本のリサイクルシステムの特徴、歴史、意義などを伝えることが大切だと改めて感じました。



メイン会場での企業・団体ブースの紹介 多数ご来場いただいた容環協ブース

【牛乳パックリサイクル講座】2024年5月25日

川越市北公民館からの要請により、小学生を対象とした『牛乳パックリサイクル講座』を開催することになりました。牛乳パックン探検隊の動画視聴、紙バックの手開き体験、紙バックからできたパルプ液を使った手すきはがきづくりの体験の3つのプログラムから学んでもらいました。

牛乳パックン探検隊の動画視聴では、紙バックは軽くて積載効率が良い容器であることを学び、紙バックの手開き体験では、牛乳パックを実際に飲んでハサミを使わずに手で開いてもらいました。手すきはがきづくりの体験では、パルプ液に冷たくて気持ち良いと喜び、柔らかくなったパルプ液にふわふわしていると驚き、アイロンで乾燥させると固い丈夫な紙ができることに感動していました。誰でも身近で手軽にできるSDGsの取り組みであることを理解したと思います。



バックの手開き体験 手すきはがきづくり

【ワクワクEXPO with第19回食育推進全国大会】2024年6月1日、2日

食育推進全国大会は、食育推進運動を重点的に実施する6月の「食育月間」に開催される全国規模の行事です。今年度は翌年に万博を控えた大阪府で開催されました。

ブース内では、「①めくってみよう」で牛乳はカルシウムが豊富に含まれている食品であること、「②くらべてみよう」でカルシウムが体に吸収しやすいこと、「③サンプル展示」で牛乳パックができるまでの工程と飲んだ後はリサイクルすることを学びました。ブースに立ち寄っていただいた方に紙バック再生品(ポケットティッシュやメモ帳、うちわなど)をプレゼントすると、その品質の高さに皆おどろいていました。

同時に放映した乳協の啓発動画「牛乳先生」や「パックン探検隊」ショートビデオは大変好評で、来場者の皆さんに興味をもって見ていただきました。

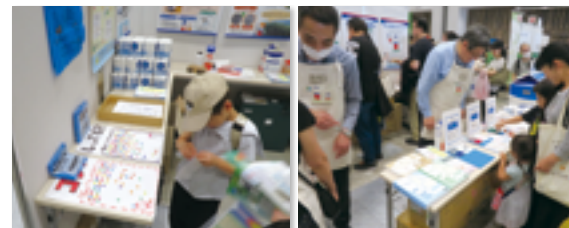


容環協側の展示内容 スタンプラリーは大人気

【2024八王子環境フェスティバル】2024年6月9日

八王子環境フェスティバルは今回で29回目を迎える八王子市最大の環境イベントです。ブースでは目的ごとに3つのパートに分けて啓発を行いました。1つは子供向けのクイズに挑戦するスタンプラリー。もう1つは大人向けのクイズ・アンケート。3つ目に八王子市の有料ごみ袋に掲載している容環協の広告の認知度調査です。

スタンプラリーでは「紙バックは分けて資源ごみに出す」と即答したり、「日頃から洗って開いて乾かしているが、注ぎ口付き紙バックの分別が商品によって何故違うのか?」と質問するなど、意識の高さが感じられました。広告については「知らなかった」がやや上回ったものの「知ることができたので、これからは意識して見るようにします」「他のごみ袋には入れないの?」などの声をいただきました。初めて参加したイベントでしたが、学ぶ姿勢はエコプロ展に匹敵するものを感じました。



容環協ごみ袋広告の認知度調査 子供に大人気のスタンプラリー

【むさしのエコreゾートワークショップ】2024年8月24日

「むさしのエコreゾート」は東京都武蔵野市のごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」の敷地内にあり、旧建物の一部をリノベーションして整備された施設です。7月～8月の約1か月間「身近なところから環境について楽しく体験しませんか?」というテーマで、さまざまな団体や企業が環境に関連するワークショップや展示会を開催しており、容環協は「牛乳パックでつくる手すきはがき」というワークショップを行いました。

牛乳パックン探検隊の動画視聴、紙バックリサイクルのパネルやサンプルの展示、紙バック由来の再生パルプを材料としたオリジナル手すきはがきづくりなどを行い、待ち時間にぬり絵やクイズ・アンケートに取り組んで、スタッフは質問に対して回答し、さらに理解を深めていただきました。



牛乳パックンの動画教材を視聴 パルプ作りのようす

【野田市リサイクルフェア2024】2024年10月19日

野田市役所でのリサイクルフェアに今回も参加しました。市役所に隣接する野田ガスホールの駐車場では産業祭がおこなわれており、10月とは思えない陽気とともに出展者の活気も伝わってきました。

牛乳パックン探検隊の動画を視聴の後、紙バックの構造やリサイクルによるCO₂削減効果を解説しました。手開きした紙バックを、子供たちは笑顔で回収ボックスに入れてお土産を受け取り、紙すき体験ではオリジナルのはがきづくりを楽しみました。

今回のイベントを通じて紙バックが貴重な資源であると理解していただき、今後さらにリサイクルが進むものと期待がふくらみます。



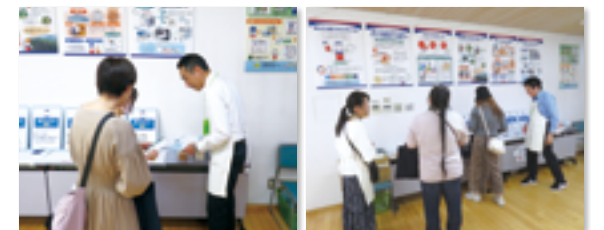
パネル展示 手すきはがきづくり

【第12回アトムフェスタ】2024年11月3日

新宿リサイクル活動センターは高田馬場駅のすぐ近くにあり、同じ建物で活動する高田馬場福祉作業所と共同で例年11月アトムフェスタを開催しています。今回、容環協は初めて出展いたしました。

来場された方に紙バックのリサイクルに関することなどを説明しました。リサイクル活動を行う施設でのイベントということもあり、日頃から紙バックをリサイクルしている方が多く、どの回収先が利用しやすいかなど貴重な意見が得られました。

福祉作業所で手作りされた商品の販売やステージでの発表、またコロナ禍以降で初めて飲食品の販売を再開したこともあり、たくさんの方が来場されました。



クイズの景品はノート 来場者に説明するようす

牛乳パックリサイクル出前授業

容環協の発行物

紙パックの特性やリサイクルを
わかりやすく学べるDVDや
リーフレットを提供しています。

学乳パックのリサイクルに向けて
出前授業に取り組んでいます。

【神奈川県 横浜市立豊岡小学校】2024年1月19日

「日本国内で植林はしているの?」「紙パック1枚からどれくらいのはがきができるの?」「紙すきはがきづくりの方法を知って、紙パックをリサイクルすることが地球環境に役立つことがわかってよかった」などの質問や感想がありました。(小学校4年3組32名受講)



「牛乳パックン探検隊」動画を使った解説

【神奈川県 川崎市立東橋中学校】2024年8月30日

川崎市には、全国でも有数のリサイクル工場があり、紙パックの回収・リサイクルの仕組みがきちんとでき上がっています。しかし、現在学乳パックが焼却処分されていることを生徒に話すと皆びっくりしていました。(中学校2年生8クラス322名受講)



講義を集中して聞くようす

【神奈川県 川崎市立古市場小学校】2024年10月29日

今回の出前授業には、川崎市教育委員会の方々が視察に来られました。市民団体・市環境局・容環協が連携して授業を行い、環境教育としての意義を実感いただく良い機会になりました。教育委員会の協力も加わり、学乳パックリサイクルの輪が今後も広がっていくことを予感させる出前授業になりました。(小学校5年生60名受講)

出前授業の実施例(学校の要望や授業時間により調整)

- ・講義 「3Rについて」「牛乳パックをリサイクルする手順や利点」
- ・動画視聴 「牛乳パックン探検隊」
「学校給食牛乳パックのリサイクル事例」
- ・体験学習 「牛乳パックで紙すき」「3層からなる紙パック」
「紙パックの手開き」

協働実施団体(川崎市でのコラボレーション)

- ・3R推進プロジェクト(市民団体)
- ・グリーンコンシューマグループかわさき(市民団体)
- ・川崎市環境局(減量推進課)

【千葉県 市川市立国府台小学校】2024年7月9日

「紙パックは無駄なくリサイクルされるのがわかりました」「牛乳をいっぱい飲もうと思いました」という感想がありました。おみやげのうちわやノートを見て「いろいろな製品にリサイクルできるんだ」と驚きの声がありました。(小学校4年生3クラス94名受講)



リサイクルの質問をする児童

【大阪府 門真市立上野口小学校】2024年9月17日

紙すきの体験では代表の先生がはがきづくりに挑戦、すき網ですくい上げられたパルプが長方形の形になると「すごい」と歓声が上がりました。児童からは様々な質問が飛び出し、リサイクルに対する高い関心がうかがえました。(小学校4年生2クラス42名受講)



手を上げてクイズに答えるようす



手に触れて学びました



牛乳パックン探検隊DVD



マシンガンズDVD
「牛乳パックリサイクルしないともったいない」



知ってほしい紙パックと
リサイクル



地球にやさしく紙パックのリサイクル



紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK



学校給食用牛乳パック
リサイクルの手引き

DVD「牛乳パックン探検隊」

小学生に、牛乳パックのリサイクルと環境についてわかりやすく学習してもらうDVDです。①牛乳パックのふるさと、②森林の管理、③木から牛乳パックへ、④牛乳パックの特徴、⑤飲んだらリサイクル、の5つの内容を、牛乳パックンが説明してくれます。子供たちに親しみを持って見てもらえる内容です。環境について考え、自ら行動することの大切さを学ぶ教材としてご活用ください。お申込みいただいた学校・団体には無料配布しています。2025年にさらに観やすくなった改訂版が発行されます。

マシンガンズDVD「牛乳パックリサイクルしないともったいない」

マシンガンズによる牛乳パックのリサイクルをゆるーく解説したDVDです。語りはゆるーくしていますが、内容はいたってまじめに作ってありますので、子供から大人まで楽しんで見ながらリサイクルを学ぶことができるDVDです。「もったいない!牛乳パックは捨てないで」と「やってみよ〜牛乳パックのリサイクル」の2部構成になっていて、それぞれ約8分の動画です。このDVDもお申込みいただければ無料配布しています。

知ってほしい紙パックとリサイクル

大人向けに、牛乳パックのリサイクルと環境についてわかりやすく解説した冊子です。①貴重な資源の紙パック、②紙だからいいこと、③循環型社会のために、④リサイクルすれば…、⑤分別のルール、⑥紙パックのリサイクルの現状について記載しています。地域などでの紙パックリサイクルの啓発活動にもお使いいただけます。お申込みいただければ配布しています。

地球にやさしく紙パックのリサイクル、紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK

資源ってなんだろう? どうしてリサイクルするの? どんないいことがあるの? 紙パックのふるさととは?といった疑問、リサイクルのルール、紙パックの開き方をわかりやすく解説しています。地球にやさしく、地球温暖化防止に貢献できる紙パックのリサイクルを始めてみませんか? 小学生向けには、学習帳としてもお役にいただける「紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK」があります。表紙には紙パックを主体とした再生紙を使用しています。どちらもお申込みいただければ配布しています。

学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き

学校給食の牛乳パックのリサイクルで困っていませんか? リサイクルで困っている先生のお手伝いをするために、リサイクルの手引きを作成しました。実際にリサイクルを行っている学校の事例が紹介されていて、リサイクルするためのヒントが載っています。なぜ紙パックのリサイクルが必要なのかもわかります。また、飲み終わった牛乳パックの開け方もわかりやすく図で示してあります。この手引きは、容環協のホームページからダウンロードして利用できます。2025年にさらに読みやすくなった改訂版が発行されます。

エコプロ2024

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2024】12月4日～6日

東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境イベントに本年度も出展いたしました。

前年好評だったスタンプラリーを踏襲し、小・中学生に紙パックの特徴、紙パックリサイクルの意義と環境への貢献、リサイクルのルール、森林管理、リサイクル工場のように楽しく学んでもらえるようにしました。

パネルの掲示コーナーにはクイズを設定し、入り口でもらった台紙に牛乳パックのスタンプを押して回答していきます。各パネルでは、専門委員が実物サンプルを使って説明を行い、クイズに回答、次のコーナーに進み、スタンプラリーを完成させていきます。スタンプラリーに参加いただいた方には、地球にやさしくNOTEBOOKと紙パックの再生パルプを使用したコースター、一筆箋、ポチ袋、手すきメモカードなどの再生品を1点、参加賞としてプレゼントしました。小・中学生限定で実施したスタンプラリーは大変好評で、準備した2,000個の参加賞は3日目には不足し、手すきメモカードを追加するほどでした。

各パネルでは、「なぜ紙パックは分別して出すの?」「管理された森から切り出され木は無駄なく使われているんだ!」



児童にパネルを説明するようす



容環協ブースは大盛況でした

「紙パックをリサイクルすると何が出来るの?」「回収率って50%ないの!?!」といった疑問や意見が寄せられ、専門委員が丁寧に対応していました。

エコプロ2024の累計来場者数は、前年より少ない約63,300名でしたが、容環協のブースは前年より3割増しの約3,200名の方が足を運んで下さいました。

今回のエコプロ展では、新しく制作した「牛乳パックン探検隊」の動画と(一社)日本乳業協会より提供いただいた「教えて!!牛乳先生」の動画を大型モニターで交互に上映しました。デザインをリニューアルした回収ボックスのお披露目も行いました。「紙パックを持参した方には景品を差し上げます」とエコプロ出展者紹介サイトに告知したところ、紙パックを持参してくださる方が多く、回収ボックスは一杯になりました。

例年どおり牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール入賞作品の展示と会員企業から送付された紙パックの展示は容環協ブースの正面に配置し、沢山の来場者の方に見ていただけるように工夫しました。

今回の展示を通じて、「紙パックのリサイクルが、身近で手軽に出来るSDGsへの取組みであること」を多くの方々に訴求することができました。



パネルに関連したクイズを出すようす



おともだち皆で紙パックを持ってきてくれました

真崎茜里さんの作品
『未来へのキャリーケース』が
見事最優秀賞に。

24回目となる「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が開催され、全国の小学校より3,395作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞8作品が選ばれました。入賞された皆様、おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞
『未来へのキャリーケース』
真崎 茜里さん(北海道千歳市立末広小学校6年)
- ◆優秀賞 『万年ecoカレンダー』
真崎 妃菜里さん(北海道千歳市立末広小学校4年)
- ◆優秀賞 『タガメとカエル』
川崎 清永さん(大阪府堺市立竹城台東小学校1年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『紙から手作り!ランプシェード』
池戸 煌梨、陽菜凜さん(岐阜県中津川市立苗木小学校6・4年)
- ◆持続可能な社会をつくる元気ネット賞
『東御市名産品のつめ合わせ』
土屋 芹葉さん(長野県東御市立北御牧小学校6年)
- ◆日本乳業協会賞
『牛乳パックでバースデーケーキ』
廣瀬 心美さん(東京都杉並区立桃井第二小学校4年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『マンモス』
大森 暁さん(茨城県つくば市立栗原小学校5年)
- ◆審査員特別賞
『パイナップル』
名生 真彩さん(神奈川県立相模原中央支援学校4年)

最優秀賞は真崎茜里さんの『未来へのキャリーケース』。開くと丸い地球が現れたり、キャスターの脚が回転したり、動きのある作品です。本作品には「いつまでも豊かな自然を守り、未来に届けたい」、「きれいな地球を残したい」という気持ちが込められています。受賞作品で最多、192枚の紙パックを使った大作でありながら、部位ごとに異なる加工が施され、素材の様々な特性を活かした力作です。

今回も「エコプロ2024」の容環協ブースで受賞作品を展示しました。来場された方々からは「紙パックからこんな素晴らしい作品ができるなんて!」という感嘆の声が上がっていました。また、表彰式も東京駅前の会場にて開催され、審査委員長の東京国立博物館・藤原館長、実行委員長の容環協・柳田会長をはじめ、審査委員の方々から受賞者に賞状・トロフィー・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学生向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞『未来へのキャリーケース』



審査のようす



表彰式のようす